

英語を読むためのルール 16

1. 前置詞＋名詞	{	①形容詞 ②副詞
-----------	---	-------------

- ①「前置詞＋名詞」が形容詞
A book on the desk is mine.
机の上の本は私のです。
- ②「前置詞＋名詞」が副詞
There is a book on the desk.
机の上に本があります。

2. A of B	{	①「BがAする」 ②「BをAする」 ③「Bの持つA」 ④「BというA」 ⑤「Bの中のA」 ⑥「BでできたA」 ⑦「AのB」 ⑧「関連の of」 ⑨「性質の of」
-----------	---	---

- ①主格の of で「BがAする」
The arrival of the prime minister
総理大臣が到着すること
- ②目的格の of で「BをAする」
the writing of a letter
手紙を書くこと
- ③同格の of で「BというA」「A、すなわちB」

{	the name of Linda リンダという名前 the habit of getting up early 朝早く起きるとい習慣
---	--

* 「A of B」の形ならば、ほぼ同格の of だと考えて良い。
 * 「A of B」が「A = B」の関係だから「同格」と呼ぶ。

- ④部分の of で「Bの中のA」

{	all of the girls most of the girls some of the girls one of the girls	その女の子の中の全部 その女の子の中の大部分 その女の子の中の一部 その女の子の中の1人
---	--	---
- ⑤所有格の of で「Bの持つA」

{	the right of the workers 労働者の持つ権利 the roof of the house その家の屋根
---	---

* いつも「Bの持つA」とは訳出できない。「僕の家が持つ屋根」ではおかしいからだ。
 * 「B' A」で書き換えられるかどうか。
 the house's roof
 the workers' rights

- ⑥構成要素の of で「Bで構成されたA」「BでできたA」
people of all ages
あらゆる年齢（で構成された）の人々
- ⑦単位・数量の of で「AのB」
a cup of coffee
カップ一杯のコーヒー

- ⑧関連の of で「about」と同じ
I am talking of Linda.
僕はリンダのことについて話をしている。

* これは「A of B」の形をとらず「of B」だけで成り立つ。

- ⑨性質・特徴の of で「of + 抽象名詞 = 形容詞」

Those are things of use.
= Those are useful things.
それらは役に立つ物です。

* It is + [形容詞] of 人 to ~ は「人が持つ[形容詞]な性質」なので、この of も「性質の of」と呼んでいましたが、「of + 抽象名詞 = 形容詞」と区別するために、今後は「it ~ of · · · to の of」と呼ぶことにします。

3. ことシリーズ

- ① 私がそこへ行くこと
- ② 私がそこへ行ったこと
- ③ 私がそこへ行かないこと
- ④ 私がそこへ行かなかったこと

- ①「私がそこへ行くこと」

for me to go there
my going there
that I go there

- ②「私がそこへ行ったこと」

for me to have gone there
my having gone there
that I went there

- ③「私がそこへ行かないこと」

for me not to go there
my not going there
that I don't go there

- ④「私がそこへ行かなかったこと」

for me not to have gone there
my not having gone there
that I didn't go there

4. E T の法則

- ① to ~
- ② 現在分詞 ~
- ③ 過去分詞 ~
- ④ 関係代名詞 ~
- ⑤ 前置詞 + 名詞

- ①「to から始まる形容詞」で「~すべき・・・」

a book to read today
今日読む(べき)本

- ②「現在分詞から始まる形容詞」で「~している・・・」

a book dealing with Japan
日本の事を扱っている本

- ③「過去分詞から始まる形容詞」で「~された・・・」

a book written in English
英語で書かれた本

- ④「関係代名詞から始まる形容詞」

a book which Father bought for me
父が僕に買ってくれた本

- ⑤「前置詞 + 名詞」が形容詞

a book on the desk
机の上の本

5. ~ing の用法 { ①動名詞で名詞
②現在分詞で形容詞
③分詞構文で副詞

- ①「動名詞で名詞」
Our magazine started dealing with Japan.
うちの雑誌は日本を扱う事を始めた。
- ②「現在分詞で形容詞」
I have a book dealing with Japan.
僕は日本を扱っている本を持っている。
- ③「分詞構文で副詞」
Dealing with Japan, our magazine is popular among Japanese.
日本の事を扱っているので、うちの雑誌は日本人に人気がある。

6. to ~ の用法 { ①「ことシリーズの to」で名詞
②「前置詞＋名詞」で形容詞
③「E T の法則の to」で形容詞
④「前置詞＋名詞」で副詞
⑤「なぜ？どうして？の to」で副詞
⑥「何するために？の to」で副詞
⑦「何するのが？の to」で副詞
⑧「その結果？の to」で副詞

- ①「ことシリーズ」で名詞
To read a book all day long is fun.
一日中本を読むことは楽しい。
- ②「前置詞＋名詞」で形容詞
The damage to the skin is severe.
肌へのダメージが大きい。
- ③「E T の法則」で形容詞
I have no book to read today.
僕は今日読む本が一冊もない。
- ④「前置詞＋名詞」で副詞
She was wet to the skin.
彼女はずぶ濡れだった。
- ⑤「なぜ？どうして？」で副詞
I am happy to see you.
あなたに会えてうれしい。
- ⑥「何するために？」で副詞
I came here to see you.
あなたに会うために僕はここに来た。
- ⑦「なにをするのが？」で副詞
This book is difficult to read in a day.
この本は一日で読んでしまうのが難しい。
- ⑧「その結果？」で副詞
She lived to be eighty.
彼女は80才まで生きた。(彼女は生きた。その結果80才になった。)

7. that の用法 { ①「ことシリーズの that」で名詞
②「同格の that」で名詞
③「関係代名詞」で形容詞
④「なぜ？どうして？の that」で副詞
⑤「その結果？の that」で副詞
⑥「強調構文の that」
⑦「熟語の that」

- ①「ことシリーズの that」で名詞
We agreed that we would start early.
僕らは早めに出発することで合意した。

- ②「同格の that」で名詞
We believe the fact that he went there.
僕らは彼がそこへ行ったという事実を信じている。
- ③「関係代名詞の that」で形容詞
I have no book that I can read today.
僕には今日読む本が一冊もない。
- ④「なぜ? どうして? の that」で副詞
I am happy that I can see you.
僕はあなたに会えて嬉しい。
- ⑤「その結果? の that」で副詞
I am so tired that I can't walk any more.
僕はとても疲れていて(その結果)これ以上歩けない。
- ⑥「強調構文の that」
It is you that I love.
僕が愛しているのは君だ。
- ⑦「熟語の that」
We agree in that he should go there.
彼がそこへ行くべきだという点で、僕らは合意した。
- We know nothing except that he went there.
彼がそこへ行ったということ以外、僕らは何も知らない。

8. as の用法	}	①「ので」(理由の as) ②「とき・つれて・しながら」(時の as) ③「ように」(様態の as) ④「なのだが」(譲歩の as) ⑤比較の as ⑥資格の as ⑦関係代名詞の as
-----------	---	---

- ①「ので」(理由の as)
As I was tired, I took a taxi.
僕は疲れていたので、タクシーを利用した。
*理由の as は接続詞だから、直後には文が来る。
- ②「とき・つれて・しながら」(時の as)
As I went out of the house, my friend came.
僕が家を出ようとしたとき、友達がやってきた。
*時の as は接続詞だから、直後には文が来る。
As she listened to the news, she was crying.
彼女はその知らせを聞きながら泣いていた。
*主節が進行形の場合「~しながら」と訳出する
As we went up, the air grew colder.
僕らが上るに連れて、空気がだんだん冷たくなってきた。
*主節が変化文(~になる)の場合「~するにつれて」と訳出する
- ③「ように」(様態の as)
We think of him as a dirty old man.
僕らは彼のことをスケベ親父だと思っている。
*様態の as は前置詞で、直後には名詞が来る。
- ④「なのだが」(譲歩の as)
Young as he is, he is rich.
彼は若いのだが、お金持ちだ。
*譲歩の as は接続詞だから、直後には文が来る。
* young が文頭に倒置されていることに注意。
- ⑤ 比較の as
He is as tall as I [am tall].
彼は僕と同じくらいの背の高さだ。
*最初の as は「同じくらい」の意味の副詞、2つ目の as は「~と比べると」の意味の接続詞。
- ⑥ 資格の as
It can be used as a knife.
I am teaching you English as an English instructor.
*資格の as は前置詞。

- ⑦ 関係代名詞の as
 This is the same pen as I bought yesterday. (the same A as B)
 これは僕が昨日買ったのと同じペンだ。
 As is often the case with him, he was late again. (as is often the case with 人)
 彼には良くあることだが、また遅刻した。
 Choose such friends as will listen to you carefully. (such A as B)
 君の言うことを注意して効いてくれるようなそんな友達を選びなさい。
 * 関係代名詞の as は接続詞だが、直後には不完全な文が来る。
 * 慣用表現に含まれる as は関係代名詞だと思って良い。

9. 倒置	{	① 「完全逆転型」
		② 「一部逆転型」
		③ 「疑問文型」

- ①完全逆転型
 Here comes the bus. ← The bus comes here.
 あっ、バスが来た。
- ②一部逆転型
 Young as he is, he is rich. ← As he is young, he is rich.
 彼は若いのだが、金持ちだ。
- ③疑問文型
 No sooner had I left home than it began to rain.
 ← I had no sooner left home than it began to rain.
 僕が家を出るとすぐに雨が降り出した。

10. 省略	{	① 「一度出たから二度目は省略」
		② 「良く使うからなくても分かる省略」

- ①一度出たから2度目は省略
 You can stay here if you want to [stay here].
 I saw Lake Biwa on my way to [Kyoto] and from Kyoto.
- ②良く使うからなくても分かる省略
 When [~~I was~~] young, I loved to play baseball.
 What is the language [~~which is~~] spoken in Japan?
 There was a boy [~~who~~] lost his way in the Park.
 I have difficulty [~~in~~] solving the questions.

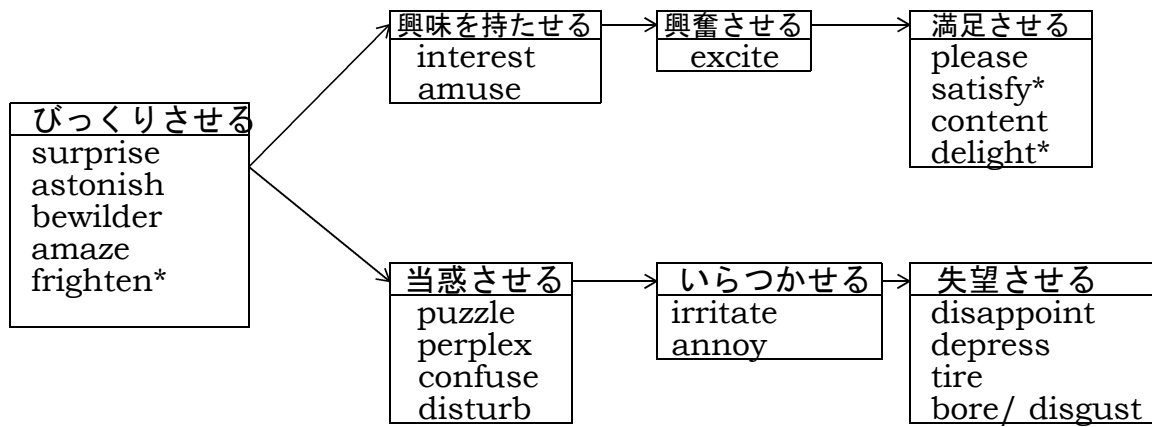
11 「should」の用法	{	① 「べき should」(義務・必要)
		② 「びっくり should」(感情)
		③ 「がっかり should」(感情)
		④ 「当たり前だの should」(主観的判断)

- ① 「べき should」(義務・必要)
 You should try your best in everything.
 何事にもベストを尽くすべきだ。
- ② 「びっくり should」(感情)
 It is surprising that she should know nothing about it.
 彼女がそのことについて何も知らないなんて驚きだ。
- ③ 「がっかり should」(感情)
 It is sad that she should resign.
 = It is a pity that she should resign.
 彼女が辞めるなんてがっかりだ。
- ④ 「当たり前だの should」(主観的判断)
 It is natural that he should succeed in life.
 It is necessary that you should go right away.
 It is essential that you should overcome the difficulties.
 彼が出世するのも当然だ。
 君は当然すぐに出発しなくちゃいけない。
 君が困難に打ち勝つことが当然重要だ。
- * 感情の should、主観的判断は「It is ~ that・・・」の形をとることが多い。

12. the の用法	① 「群れの the」
	② 「唯一絶対の the」
	③ 「飾り予告の the」
	④ 「楽器の the」
	⑤ 「身体 of the」
	⑥ 「単位の the」
	⑦ 「境界不明の the」
	⑧ 「the+形容詞=人々」
	⑨ 「the+比較級」

- ① 「群れの the ~ s」
 the Yabushitas 藪下家
 the Dragons ドラゴンズ
 the Alps アルプス山脈
 the Philippines フィリピン諸島
- ② 「唯一絶対の the」
 the sun, the moon, the earth, the universe, the sky
 * 世の中に1つしかないモノ
 He is the only person who can do this trick.
 彼はこの手品ができる唯一の人間だ。
 * 「only」「last」「same」「very」「最上級」が名詞を飾っている
 This is the third time I have spoken to you.
 僕が君に話しかけるのはこれが3回目だ。
 * 序数が付いている
- ③ 「予告の the」
 This is the man that I saw yesterday.
 こいつが昨日僕が会った男だ。
 * 関係詞節が来ることを予告する
 London is the capital of the U.K.
 ロンドンが英国の首都だ。
 * 「A of B」が来ることを予告する
- ④ 「楽器の the」
 play the piano ピアノを弾く
 play the violin バイオリンを弾く
 * スポーツやゲームには the が付かない。
 play baseball、play chess
- ⑤ 「身体部分の the」
 He caught me by the arm.
 彼は僕の腕をつかんだ。
 I kissed her on the forehead.
 僕は彼女のおでこにキスをした。
 The man was shot through the heart.
 その男は心臓を撃ち抜かれた。
- ⑥ 「単位の the」
 We buy tea by the pound.
 僕たちはポンド単位でお茶を買う。
 The workers are paid by the week.
 その労働者は週単位で給料をもらっている。
- ⑦ 「境界不明の the」
 the Pacific Ocean 太平洋
 the Tone River 利根川
 the Sahara Desert サハラ砂漠
 * 境界線がハッキリしているものには the が付かない。
 Lake Michigan ミシガン湖
 Madison Square Garden マジソンスクエアガーデン
- ⑧ 「the+形容詞=人々」
 the rich = rich people (金持ち)
 the young = young people (若者達)
- ⑨ 「the+比較級」
 I like him all the better for his human weaknesses.
 彼が人間的な弱さをもっているのもので、その分ますます彼が好きだ。
 The older we grow, the weaker our memory becomes.
 年をとればとるほどますます記憶力が弱くなる。

13. 「させる系」の他動詞



- * 「delight」はもの修飾の場合は「delighting」とはならず「delightful」。
- * 「satisfy」はもの修飾の場合は「satisfying」も使うが「satisfactory」が一般的
- * 「frighten」はもの修飾の場合は「frightening」も使うが「frightful」が一般的
- * 受け身なのに、心の状態を表す進行形の訳語がつく。
- * 叙述用法では「人 is -ed.」、「モノ is -ing.」が原則。
- * 限定用法では「-ed + 人」「-ing + モノ」が原則。
- * 「人はする」「モノは人によってされる」が発想の基本。

14. 2つ目の「another」「also」があれば「1つ目」を探す。

15. 「it-they」「this-these」「that-those」「such」「the same」「so」があれば内容説明問題あり。

16. 等位接続詞があれば直後に注目、直前に同じ形を探し何と何とが結ばれているのかを考える。